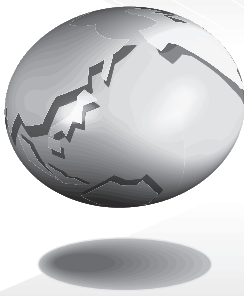


国際研究集会派遣報告



平成 27 年度 国際研究集会 (海外後期) 派遣会員報告書

RSNA2015 参加報告

派遣員 三阪知史 近畿大学医学部奈良病院

派遣国際研究集会：Radiological Society of North America 2015

開催場所：Chicago, USA

開催期間：November 29-December 4, 2015

はじめに

2015年11月29日から12月4日の間、シカゴのマコーミックプレイスで開催された第101回北米放射線学会(Radiological Society of North America: RSNA)学術大会において国際研究集会派遣会員として参加する機会を得たので報告する。

発表

今回は Cardiac のカテゴリでポスタ発表を行った。発表内容としては、本来は形態的な冠動脈狭窄の評価に利用される冠動脈 computed tomography (CT) 画像を用いて、心筋虚血を引き起こす機能的有意冠動脈狭窄の評価ができる新しい解析手法を考案し、その診断能について評価をしたという内容であった。本手法は機能的有意冠動脈狭窄の診断能を有し、冠動脈 CT による狭窄度評価と組み合わせることで単独評価よりも更に診断能が上がるという結果が得られた。海外では Cardiac の分野に対する関心が特に高く、発表時には多くの聴講者がいた。そのため自分の研究内容に対する評価を直に感じることができた。

学会概要

RSNA では特別講演、教育講演、機器展示、口述発表、ポスタ発表などのほかに Education Exhibits と呼ばれる教育展示発表がある。この Education Exhibits では優秀な発表に対して賞が授与される。2015年度は38名の日本人が受賞し、その中には診療放射線技師も含まれていた。放射線関連学会の中でも世界最大



Photo モニタ前にて発表中の筆者

規模の RSNA で賞を受賞するのは非常に困難なことである。口述発表やポスタ発表に挑戦するだけでなく、賞の獲得を目指して Education Exhibits に挑戦するのも非常に意義深いことであると思えた。

また RSNA では今後の放射線医学に関する最新動向を知ることができる。今回特に興味深かったのが、米国放射線医学会が提唱する「Imaging 3.0」に関する講演である。「Imaging 3.0」とは放射線科医が読影業務を超えて患者ヘルスケアに関わっていく新しい時代およびそれに対応するためのプログラムのことで、2013年に提唱された。これを達成する技術「Imaging Sharing：データ共有」に関しては、例えば撮影線量記

録や造影剤注入実施記録の PACS 上での共有など診療放射線技師に関係が深く日本でも導入が始まっている事例もある。また講演では臨床意思決定支援システムを放射線診療にいかに関与するかといった内容を聴講することができた。こういった今後世界に広がっていく最新動向を一足先に知ることができるのは RSNA の魅力である。

謝 辞

国際研究集会派遣会員として RSNA2015 に参加する機会を与えてくださった本学会の小倉明夫代表理事をはじめ国際戦略委員会、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。また学会発表に当たりご指導、ご協力いただいた近畿大学医学部奈良病院の皆様がこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

European Congress of Radiology 2016 に参加して

派遣員 永元啓介 産業医科大学病院

派遣国際研究集会：European Congress of Radiology 2016

開催場所：Vienna, Austria

開催期間：March 2-6, 2016

はじめに

2016年3月2～6日、オーストリアのウィーンにおいて European Congress of Radiology (ECR) 2016 が開催され、参加できる機会を得たので報告する。

発表内容

タイトル『Usability of exposure dose reduction using volume scan in the auditory-ossicle CT scan』にて Electric Presentation Online System (EPOS™) 内の Scientific Exhibit カテゴリのため電子ポスタによる発表である。また、今回から始まった EPOS™ を使用した口述発表 (The Voice of EPOS) の Head and Neck のセッションにて発表を行った。The Voice of EPOS は ECR ホームページから on demand 方式で視聴できるシステムである。この中で、耳小骨 CT 撮影において volume 撮影と helical 撮影の物理評価を行い、撮影時間と被ばく線量の評価を行った結果、volume 撮影に SR モード (super high resolution) を使用することによって画質を担保し、撮影時間短縮と被ばく線量低減が可能であることについて発表した。

ECR に参加して

The Voice of EPOS は今回が初めての開催のため、会場の様子や発表方法、受付方法などは当日会場入りしないとわからない状況であった。そのため会場に入るまで不安が大きかった。筆者の発表は2日目のため、初日に確認をすることができた。発表方法は EPOS™ アリーナに会場が作られ、そこで EPOS™ を使用して発表を行う方法である。また、ECR では研究発表だけでなく、基礎セミナーや hands-on が多く開催されていた。参加者は過去最多の 2万 5998 人で

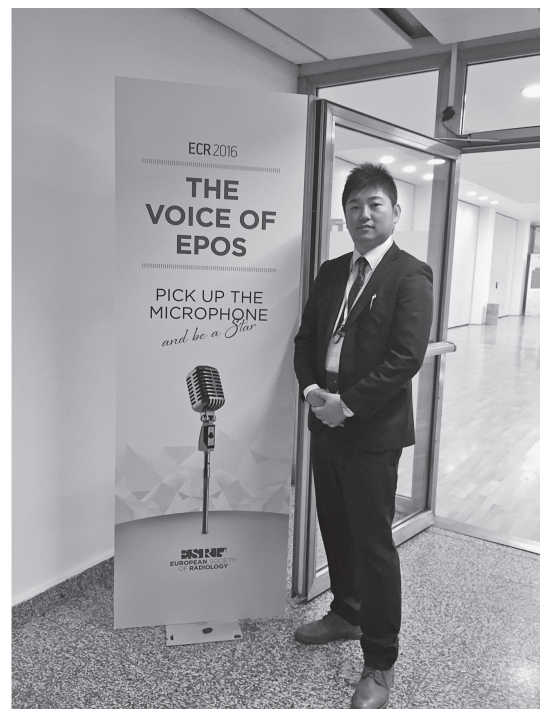


Photo EPOS アリーナ会場前にて(筆者)

あった。

今回学会に参加して学んだ知識を臨床や研究に活かし、更に知見を広めていきたいと感じた。更に、英語でのコミュニケーション力を鍛えないといけないと感じた。

謝 辞

今回の ECR2016 の参加にあたり、国際研究集会派遣会員として助成いただきました日本放射線技術学会の国際戦略委員会、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。また、国際学会の出席に快く承諾していただいた

産業医科大学病院放射線部 小川正人技師長, また多大な協力をいただいた放射線部の皆様に感謝いたし

ます。

RSNA2015 に参加して

派遣員 稲葉洋平 東北大学災害科学国際研究所

派遣国際研究集会 : Radiological Society of North America 2015

開催場所 : Chicago, USA

開催期間 : November 29-December 4, 2015

はじめに

2015年11月29日~12月4日, 米国イリノイ州シカゴ市のマコーミックプレイス(McCormick Place)にて開催された第101回北米放射線学会(Radiological Society of North America: RSNA2015)に平成27年度後期国際研究集会派遣員として参加した。今回のRSNAでは, ポスタ発表2題, 口頭発表1題が採択された。以前に, 2度参加のみでこの地を訪れた経験があったが発表は初めてであり, その経験と学会概要について報告する。

研究発表について

ポスタ発表の題目は, ①「Radiation Dose During CT-guided Interventions Using MDCT-fluoroscopy」と②「Necessity for Real-time Measurement of the Occupational Radiation Dose in Interventional Radiology」で Education Exhibits にて報告した。優れた研究発表には Education Awards があり, 研究が目で見える形で評価される(日本人では, Magna Cum Laude が4名, Cum Laude が3名, Certificate of Merit が29名表彰された)。

口頭発表の題目は, ③「Has the Radiation Dose of the X-ray Equipment Currently Used for Cardiac Intervention Procedures Been Reduced? A Longitudinal and Cross-sectional Study」で Scientific Paper Presentations にて報告した。初めての英語発表ということもあり, とても緊張した。反復練習して言葉を発することへの自分なりの自信をつけ, あとは堂々とやることを意識して何とか乗り切った。普段からの英語への反復した取組が必要であることを改めて認識させられた。

RSNA2015 について



Photo 口頭発表の様子(演者が著者)

RSNA は, 放射線医学に関する世界最大級の学術集会であり, 海外からの参加者も多い。今回は, Scientific Papers が17の専門領域で1728題, Education Exhibits が1762題, Scientific Posters が921題アクセプトされた。また, Technical Exhibits (機器展示)は651社が出展。展示面積は42万100平方フィートに上る規模である。大規模な面積が使用されているため, 移動時間もかかり計画的な行動が必要となる。

謝 辞

今回のRSNA2015を参加するにあたり, 国際研究集会派遣員として助成いただきました日本放射線技術学会の小倉明夫代表理事をはじめ国際戦略委員会の皆様, 会員の皆様方に厚く御礼申し上げます。また, 今回の国際研究発表指導および国際研究派遣申請にご推薦していただいた東北大学災害科学国際研究所の千田浩一教授, ならびに研究室の皆様に深く感謝申し上げます。